

発達 PD119

学校生活の規範に関する児童の善悪認識 III

—規範認識と日常行動との関連—

○笠井 孝久 三浦 香苗 安香 宏 徳井 千里
 (江戸川区教育研究所) (千葉大学) (お茶の水女子大学大学院)

発表 I では、自己、集団、愛他という 3 種の正当化条件を設定し、その効果を考察した。しかし、どの条件が効果をもつかには個人差があり、それは日常生活において自己、集団、他者のいずれかを優先させる行動と関連すると推測される(例えば、集団条件が罰相当度を軽減させやすい児童は、集団利益を優先する傾向がある)。本研究では基本規範の罰相当度認識、正当化条件効果のそれぞれと、正当化条件に対応するとと思われる日常行動・学業成績の関連について検討する。

【方法】

- 1.対象と調査時期 発表 I と同じ。
- 2.調査内容 発表 I の内容に加えて新たに得た資料は、
 ①行動評定 下表のような表現で、3 種類の行動傾向について、児童にはクラス内の 2 名を列挙するゲスフーテストで、教師には「あてはまる(+3)」「どちらでもない(+2)」「あてはまらない(+1)」の 3 段階評定で尋ねた。さらに教師評定には同様の形式で、規範に対する態度として「規範遵守」と「柔軟性」を加えた。
 ②主要 4 教科の 3 段階評定による学業成績。
- 3.結果の処理 児童評定は被選択数を、教師評定は段階評定値を、また学業成績は平均値を指標とした。

基本規範との関連では、基本規範の罰相当度得点と行動評定・学業成績とのピアソンの偏差積率相関係数を求めた。正の相関は、それぞれの規範を破っても叱られないと認識している児童ほど、その行動傾向が高いと評定されていることを示す。

正当化条件効果との関連では、条件効果得点を基本規範の領域と条件の種類ごとにまとめ、その平均値と行動評定・学業成績との相関係数を求めた。正の相関は、条件の効果が大きい児童ほど、その行動傾向が高いと評定されていることを示す。

【結果】

- 1.基本規範と行動評定・学業成績
 ①児童評定の「集団」、「愛他」傾向とは、どの基本規範も有意な関係ではなかった。「自己」傾向のみが「プリント」とマイナスの有意な関係であった。
 ②教師評定の「集団」、「愛他」傾向、「規範遵守」は、どの基本規範とも有意な関係ではなかった。自己傾向は学業(方法)、「宿題」以外の基本規範とマイナスの有意な関係にある。
 ③学業成績は「プリント」「日直」「ろうか」「準備運動」とマイナスの有意な関係がある。
- 2.正当化条件効果と行動評定・学業成績
 ①条件の効果とそれに対応する行動傾向には正の相関があるという予想と一致したのは、教師評定の「愛他」傾向と(課題)の愛他条件との関連だけであった。
 ②愛他条件との関連にいくつかの有意な関係がみられたが、行動の性質や規範の領域などの視点からは一貫した傾向は見られなかった。

概して予想通りの結果は得られなかった。行動評定が何によってなされるか等も含め、行動評定と規範認識との関連性についてより詳細な分析が必要である。

		基本規範の罰相当度得点との相関							正当化条件効果との相関										
		学業(課題)		学業(方法)		行 為			決めた準備運動	学 業(課題)			学 業(方法)		行 為			ス ポ ー ツ	
		宿題	決められたプリント	算数の問題	図工の工作	日直の順番	始業前に着席	廊下を走る		自己	集団	愛他	自己	愛他	自己	集団	愛他	自己	愛他
児童評定	一生懸命(自己)	-.00	-.14‡	-.03	-.01	-.07	-.03	-.01	-.07	-.05	.02	.12*	.05	-.03	.02	-.03	.07	-.06	.04
	いて欲しい人(集団)	.02	-.06	-.03	-.01	-.03	-.00	-.03	-.09	-.08	-.10	-.04	-.01	-.08	-.13*	-.01	-.02	-.08	.01
	思いやり(愛他)	.06	.06	.00	-.01	.04	.03	-.04	.03	-.01	-.00	-.01	.08	-.02	.01	-.02	.01	-.03	.06
教師評定	興味関心(自己)	-.02	-.20‡	.05	-.02	-.14*	-.12*	-.12*	-.15*	-.09	-.05	.03	.02	-.05	.05	.00	.15‡	-.06	.09
	協力協調(集団)	.01	-.03	.03	-.03	-.08	-.04	-.06	-.03	.12*	.08	.10	-.03	-.07	.07	.01	.01	.04	.08
	友達思い(愛他)	.04	-.07	.03	.00	-.06	.04	-.07	.01	.09	.12*	.12*	.01	-.06	.02	.08	.07	-.01	.08
	規範遵守	-.05	-.09	-.02	.04	.01	.02	-.07	-.11	.07	.06	.08	.02	-.01	.07	.01	.10	.06	.15*
	柔軟性	.04	-.13*	.04	.01	-.06	.02	.07	-.03	-.02	-.05	-.01	.09	.01	-.05	-.04	.04	-.09	-.01
学業成績: 4教科の平均		-.10	-.26‡	.05	.00	-.14*	-.07	-.12*	-.17‡	-.00	-.03	.11	-.01	-.12	.03	-.04	.14*	-.09	.12*

()内は、対応する正当化条件の種類

(有意水準は * : p<.05 ‡ : p<.01)